

農研機構研究報告投稿要領

(原稿の種類)

農業・食品産業分野における投稿原稿及び編集委員が投稿を依頼する原稿（依頼原稿）を掲載する。投稿原稿の種類は以下の3種類とする。

原著論文：新しい事実や知見，結論を含む報告

短 報：断片的な新しい事実や知見，結論を含む簡潔な報告

総 説：当該分野の研究について，過去の実績，現在の状況，将来に向けた展望等を含む報告

(投稿者資格)

投稿原稿の筆頭著者または責任著者（コレスポンディング・オーサー）は原則として農研機構職員とする。ただし依頼原稿はその限りではない。

(使用言語と書式)

- 1) 稿の使用言語は日本語または英語とし，作成にはパソコン用のワードプロセッサ等を用いる。
- 2) 日本語の句読点は半角の「.」（ピリオド）,「,」（コンマ）を使用し，必要な場合（単語の並列，合成語など）には「・」（中点）を使用する。
- 3) 英字および数値は半角とする。カタカナは全角とする。
- 4) JIS で規定されていないフォント（例，①，②等）は使用しない。
- 5) 計量単位は国際単位系及びCGS単位系を基本とするが，容量ではリットル単位系，圧力では慣用計量単位系（mmHg等）による記載でもよい。
- 6) 薬品名等は一般名を記載し，商品名を記載する場合は一般名の後に括弧書きで商品名を記載する。
- 7) 提出原稿はA4用紙，縦置き横書きとし，日本語のフォントはMSゴシック（見出し）又はMS明朝（本文）を用いる。英字のフォントはCenturyを用いる。動植物などの学名はイタリック体を用いる。周囲に約3センチ空白を残し，11ポイント，行間1行の1段組とし，ワードプロセッサの機能を利用して，行番号およびページ番号を全てのページに挿入する。
- 8) 本文が日本語の原稿においては，図表中に用いる言語は日本語または英語のどちらでもよい。日本語の場合は「表1」または「図1」等とし，表のタイトルと脚注，図の説明文は日本語とする。英語の場合は「Table

1]または「Figure 1」等とし，Tableのタイトルと脚注，Figureの説明文は英文とする。本文中では「Table 1」または「Fig.1」のように記載する。

(原稿の構成)

1. 原著論文

1) 原著論文は，原則として表題，図表など一切を含めて刷り上がり20ページ以内とする（刷り上がり1ページの字数は，日本語の場合25字×2段×44行＝2200字，英語の場合50字×2段×44行＝スペースを含めて4400字）。

2) 原稿は次の順序で提示する。

- ・表題ページ
- ・要約
- ・本文
- ・謝辞
- ・利益相反の有無
- ・引用文献
- ・図（Figure）の説明文
- ・表（Table）及び図（Figure）

3) 表題ページ

- ・ページ上段に和文，下段に英文で記載する。
- ・表題：日本語の場合50文字以内，英語の場合30単語以内とする。
- ・著者名：日本語表記は姓，名の順とし，共著者がいる場合は「,」（コンマ）でつなぐ。英語表記は，姓（全部大文字）を先に，名（頭文字は大文字，他は小文字）を後にする。共著者が2名以上の時は著者名をコンマでつなぎ，最後の著者名の前はコンマを入れず「and」とする。原則として執筆者を筆頭にし，責任著者には「*」を付ける。著者は研究の着想，計画又はデータ収集と解釈などに貢献し，原稿執筆への本質的な寄与をなし，最終原稿へ同意するものだけに限り，研究資金の獲得，サンプルの収集，研究グループの統括のみの場合は謝辞の項にあげる。
- ・所属：原稿内容の研究（総説の場合は執筆）を行った時点での著者の所属を記載し，異動した場合は末尾括弧内に「現」，英文は「Current:」を付けて現在の所属を記載する。著者が複数で所属が異なる場合は対応する一連番号を著者名の右肩と所

属の先頭に記載する。農研機構内は「農研機構 所属部門・センター」とし、領域以降は不要とする。また、責任著者については、現在の所属機関、所在地、電話番号、FAX番号、e-mailアドレスを記載し、農研機構内は「農研機構 所属部門・センター」と「領域等」とする。

〔記載例〕

農研太郎^{1)*}

1) 農研機構 中央農業研究センター（現 農研機構 北海道農業研究センター）

*責任著者：農研機構 北海道農業研究センター

〇〇研究領域

〒305-8517 茨城県つくば市観音台3-1-1

TEL：000-000-0000

FAX：000-0000-0000

E-mail：0000@affrc.go.jp

NOKEN Taro^{1)*}

1) Central Region Agricultural Research Center, NARO (Current: Hokkaido Agricultural Research Center, NARO)

*Corresponding author: Division of 〇〇, Hokkaido Agricultural Research Center, NARO

1 Hitsujigaoka, Toyohira, Sapporo, Hokkaido 062-8555, Japan.

TEL: 000-000-0000 FAX: 000-000-0000

E-mail: 0000@affrc.go.jp

4) 要約

要約（和文、500字以内）とSummary（英文、700語以内）を記載する。原則として改行せず、略語や慣用語を用いず、文献の引用をしない。英文の校閲は著者が行う。要約及びSummaryの末尾には、それぞれ日本語及び英語のキーワードを3～5語付ける。

5) 本文

本文には見出しをつける。「緒言」、「材料および方法」、「結果と考察」などの見出しの立て方は自由とし、見出しに番号はつけない。大見出しの下に更に中見出し、小見出しを付ける場合は、中見出しには「1.」、小見出しには「1)」のように番号をつける。

6) 国や企業等から研究費を受けて研究を行った場合には、各研究費の記載例を参考に謝辞に記載する。

〔記載例〕

〔科研費2課題の助成を受けている場合〕本研究はJSPS 科研費 xxxxxxxx, yyyyyyyy の助成を受けたものです。

〔企業から研究費の提供を受けている場合〕本研究は株式会社△△より研究費の提供を受けたものです。

なお、運営費交付金（課題研究費、目的基礎研究費、理事長裁量経費等）については記載しない。

7) 利益相反の有無

以下のように記載する。

〔記載例〕

〔研究費の提供を受けている場合〕〇〇（著者名）は本論文に関連して株式会社△△より研究費の提供を受けている。他の著者は開示すべき利益相反はない。

〔特許の発明者である場合〕〇〇株式会社とNAROは「・・・の使用法」に関する特許を保有している。〇△と△□はこの特許の発明者である。他の著者は開示すべき利益相反はない。

〔利益相反が無い場合〕すべての著者は開示すべき利益相反はない。

8) 引用

【本文中の引用】

- ・本文中の引用は著者の姓と発表年で引用する。共著の場合、2名までは姓を連記し、日本語では「,」、英語では「and」で両名を結ぶ。3名以上は筆頭者のみを引用して日本語では「ら」、英語では「et al.」をつける。
- ・私信の場合は本文に記載する。

〔記載例〕

ハードウェア価格の急速な低下は農村において予測をはるかに上回る普及をもたらしている（宮沢1989, 伊藤ら1992）。その傾向は海外でも同様で（Smith et al. 1991）...

ハードウェアの価格の急速な低下は農村において予測をはるかに上回る普及をもたらしている（伊藤私信）。

【引用文献】

- ・引用文献は著者「姓名」のアルファベット順に配

列する。筆頭著者が同一の時は発表年次順とし、筆頭者と発表年次が同一の時は雑誌名のアルファベット順とする。

- ・著者名は「ら」「et al.」とせず、すべて記載する。
- ・雑誌名は省略せずに記載する。
- ・未発行の文献等は、掲載が決定している場合は「印刷中」または「in press」とし、掲載が決定していない場合は引用しない。
- ・URLの引用は著者と内容タイトルが明白な場合とし、参照年月日を記載する。本文中の括弧内にURLを記載する場合も参照した年月日を記載する。
- ・著者名が日本語の場合でも発行年の（ ）は半角とし、両側に半角のスペースを空ける。

[記載例]

農田太郎, 研川花子, 機本次郎, 構山一子 (1992) 米価格の推移に関する分析. 農業情報研究, 1:651-670.
 Nomiya S and Tsukuba T (1998) IMP software revolution. Agricultural Information Research, 7:11-14.
 Winnick S, Lucas DO, Hartman AL and Toll D (2005) How do you improve compliance? Pediatrics, 115:e718-e724.
 研川花子, 構山一子 (2019) 農研機構の将来を語る. 農研機構研究報告, 印刷中.
 農田太郎 (2002) 農業経営診断ソフトのすべて. JSAI 編, 農業情報年鑑 2003, 電農出版, 東京, 125-136.
 山田太郎 (1991) 農業におけるパーソナルコンピュータ利用. 農業社, 土浦, 255.
 機本次郎 (2018) 農研機構の知名度向上に向けて, 博士論文, 筑波大学, 35-37.
 Forman MS and Valsamakis A (2011) Specimen collection, transport, and processing: virology. In Ver-salovic J, Carroll KC, Jorgensen JH, Funke G, Landry ML and Warnock DW (ed), Manual of clinical microbiology, 10thed, vol 2, ASM Press, Washington, DC, 1276-1288.
 筒井俊之 (2018) 日本における家畜伝染病の発生状況とその対策. 第161回日本獣医学会学術集会講演要旨集, 42.
 Rotimi VO, Salako NO, Mohaddas EM and Philip LP (2005) Importance of antimicrobes. Abstr 45th Intersci Conf Antimicrob Agents Chemother, abstr D-1658.

農業インターネットセンター (1999) 病害虫防除支援システム. <http://www.agic.ne.jp/padb/>, 2002年10月1日参照.

9) 図 (Figure) の説明文はまとめて記載する。

10) 表 (Table) 及び図 (Figure) は A4 用紙に収まるサイズとし、別々の用紙で提出する。表 (Table) と図 (Figure) の挿入位置は本文原稿の欄外に指定する。なお、図表のカラー印刷は必要なものに留める。

2. 短報

1) 短報は、表題、図表など一切を含めて刷り上がり4ページ以内とする。(刷り上がり1ページの字数は、日本語の場合 25 字×2段×44 行 = 2200 字、英語の場合 50 字×2段×44 行 = スペースを含めて 4400 字)。

2) 原稿は原著論文と同じ順序で提示する。

3) 表題ページは原著論文と同じ要領で記載する。

4) 要約 (和文) と Summary (英文) を記載する。要約は 300 字以内、Summary は 350 語以内とし、それ以外は原著論文と同じ要領で記載する。

要約及び Summary の末尾には、それぞれ日本語及び英語のキーワードを 3～5 語付ける。

5) 本文、謝辞、利益相反の有無、引用文献、表 (Table)、図 (Figure) は原著論文と同じ要領で記載する。

3. 総説

1) 総説は原則として表題、図表など一切を含めて刷り上がり 10 ページ以内とする (刷り上がり 1 ページの字数は、日本語の場合 25 字×2段×44 行 = 2200 字、英語の場合 50 字×2段×44 行 = スペースを含めて 4400 字)。

2) 原稿は原著論文と同じ順序で提示する。

3) 表題ページは原著論文と同じ要領で記載する。

4) 要約は原著論文と同じ要領で記載する。

5) 本文には「はじめに」「おわりに」の見出しをつける。途中の見出しの付け方は自由とし、見出しに番号はつけない。

6) 謝辞、利益相反の有無、引用文献、表 (Table)、図 (Figure) は原著論文と同じ要領で記載する。

7) 原著論文、他学会誌、商業誌等からの転載がある場合は、それらの著作権を確認の上、投稿前に転載許可あるいは図表の変更を行う。

4. 依頼原稿

原稿依頼時に必要な書式等を定める。

(原稿の提出)

原稿の提出は e-mail で行う。

送付先は NARO_Journal@ml.affrc.go.jp とする。

(原稿の採否)

1. 投稿原稿 (原著論文, 短報, 総説)

原則として匿名査読者 2 名以上による審査を行い, その審査結果を参考に, 編集委員会が掲載の採否を決定する。査読者は編集委員が指名する。編集委員は, 査読者の意見を参考に原稿について加除訂正を著者に求めることができる。掲載号及び掲載順序や体裁などは編集委員会に一任する。

2. 依頼原稿

原則として査読者による査読は行わない。編集委員会は, 原稿について加除訂正を著者に求めることができる。

(校正)

原則として印刷原稿の著者校正は 1 回に限る。一般原稿については, 校正は印刷上の誤りの訂正にとどめ, 内容の変更を認めない。

(著作権)

原稿の著作権は著述した者に帰属するものとするが, 掲載前に「著作物利用許諾書」を提出して農研機構に対して無償にて利用の許諾を行うものとする (参照: 刊行物著作権取扱規程)。

2020 年 5 月 12 日一部改正。